



# TEAM NEXT YONEZAWA

## 地域に根差す葬儀文化を 守り、つないでいく

江戸時代中期、お棺の作り手としてまつだ源兵衛氏が創業した「源兵衛堂」。令和の現在は、仏壇仏具の販売や、葬祭に関するサービスを提供しています。長い歴史を紡いできた家業を継いだ松田智博さんは、地域に根差す葬儀文化の継承と、新たな価値の創造を模索しています。

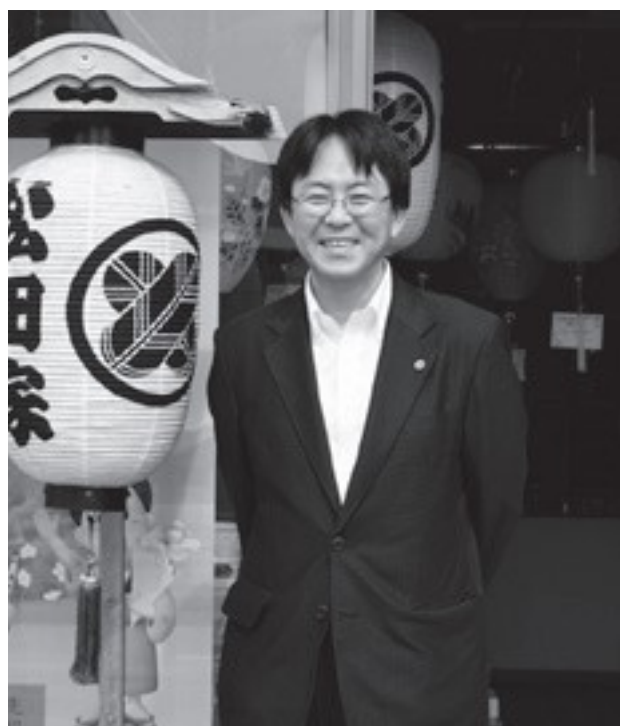
「昔の葬式は、大勢で棺をかついでお寺に納棺しました。隣組など地域で協力して葬式を行うことは、戦前までは当たり前でしたが、近年は家族葬なども増えています。」そう話す松田さんは、葬祭を通じて家族・地域などのコミュニティの変化も目の当たりにしてきました。「近年お年寄りから自然に学んできた仏事・法事の作法や、隣組との付き合い方などが後世に伝わりにくくなっているように思います。加えて、何十年かに1度の行事である葬儀をスムーズに行うのは難しいので、あらゆる面でサポートをするのが私たちの仕事です。」時代の変化を寂しいと思うこともあるそうですが、松田さんは故人や先祖への感謝の心を伝えることが一番大事と話します。

また、松田さんは「米沢に伝わる葬儀文化を守っていきたい」と話します。初盆に提灯を贈る風習や、七本塔婆しちほんとうぼ（塔婆と同じ役割をするもの）という独自の形をした葬儀品は、全国的にも珍しいそうです。「昔の習慣は時代と共に変化していくものです。大切なのは世の中の変化に合わせて継承していくこと。無くしてはいけなものを守りながら、新たに創造するチャンスも見つけていきたい」と話す松田さん。現在は、米沢織を葬儀品に取り入れたり、米沢の産物を活かした新たな文化価値の創造を考えています。

仏壇仏具の販売・葬祭のサポートを行う

### 有限会社 源兵衛堂（大町4丁目）

江戸時代中期に創業以来、300年続く老舗。家族で継承しながら長年の間米沢の葬儀を見つめ続け、代表取締役の松田智博さん（写真）は16代目となる。



米沢独自の形をした七本塔婆しちほんとうぼ

### 「米沢品質向上運動」とは

本市では、挑戦と創造のあかし「米沢品質」をスローガンに掲げ、産品だけではなくサービス・観光・文化・行政など、様々な領域の「挑戦と創造」を喚起し、付加価値を高めていくことを目的に「米沢品質向上運動」を展開しています。本市のブランディングに賛同し、この運動に参加するプレイヤーが「TEAM NEXT YONEZAWA (TNY)」です。（7月14日現在、131の企業・団体・個人が登録）

